ISSEIDO
東京 神田
桐亭文庫
越後 西脇吉 小千谷
賀茂真淵
人間不貴
河原長亭

篆文孝經

大開本文

河庚亭

柯亭堂

越後 小千谷 西脇吉

芸文集

序

八百万の神たちも作男作女の八のれ耳を
切りたまひ八ちを神代の名数ふるおいち
はいの理屈の垂と知て天地人を
三才といひ内行不の三種といひ和合の
三神も產霊おもこ鳥もちて仙術の

信濃ノ国(サフロノ)[illegible]
[illegible]
京鬱園[illegible]
[illegible]
[illegible]
一[illegible]三十の一と

[illegible]

[illegible]

人口　鳴亭
[illegible]行　[illegible]

[illegible]
[illegible]　童京
[illegible]　柳同
[illegible]　吳斧
[illegible]　吏前
[illegible]　水胡

ウ 此月を毎ハつゝまを酒一杯 午
こゝ所を酒之のゐれ所ぐ亭 え
ねこゝろてしかりのゐなゝ所 所
神ゐ嶽をはんて立額 同
下宮の事さくゝをぐ山はえ 朋
あゝを時ゝがゐ所ゐ音 前
蹴ゐくゝゐ初ゝ小信のゐ新 え
ねゐの猶と中ゝゐ所ゐ お

ゝゝゝゐ所ゐの二枚ゐ 同
れ日の帳れおを家所ゝを 井
紫ゐの新ゝ訓採ゐハむ小餘 前
ゐの事ゐくゝゐ 弓質 朋
ニ ひゝくゝと火焼寒てゐゝを 午
年 ゐて所ねハ所のおを え
ねゐれてゝ所ゐ和尚の小ゐつを 井
ぬゐ幸ゐゐゝをゝね苦く 同

西うけよ二階の窓さうじ　胡
之味　深よさく　絵と書き　前
お袋も　稲の　神まつり　入　え
手深よ　ごぶ　素羅もり　祈　東
濂（カシ）　東の　ちゃん　年　同
元宮　村の　奥　ちゃ　祭　井
池　東も　相　ちゃ　月の　前
祭　宮　祭て　ちゃ　祭る　胡

稲（ウ）　ちゃ　ちゃ　袋　西　ちゃ　西　東
横　ちゃ　ちゃ　ちゃ　ちゃ　ちゃ　え
同　ちゃ　ちゃ　ちゃ　ちゃ　ちゃ　井
ち　ちゃ　ひ　ち　入　相　同
ち　て　ち　ち　ち　む　ち　胡
ち　代　ち　ち　同　井　加　ち　前

初年

利賢入門の人々を祝して

芭蕉庵
年よりの孫のそもそも江戸邸　菊

柳陰園
初年や下向を辞ふて出雲路　青仲

むかし
初しぐやしぐるる梅ゐり赤の飯　山只

山孫
年や年ぞ坂の雲雀孫ぞ　右範

東中
年むかしよ下京れ雲ぞ降り　水胡

伊尾亭
初年や都の伊達ぞ高松ぞ　青来

心代

武陵
心ぞりやおそれこそ初嵐　晃香

洛陽
おかりよりやぞ世の変化ぞ　花家

石動
心かりや年ぞ戸ぞ降るぞ　方堅

越府
おぞりや子の何ぞ竜ぞ心　如的

東中
心代や羽織ぞうぞ中小姓　逸夾

心ぞりや比丘尼堂ぞ門畠　青平

彼岸

秋さくひさくよ除除の彼岸かな　孤子庵　蓮二
湖東
涅槃会と百ちとらいの彼岸哉　佐角
敦賀
暖笑かゝる彼岸の角もあり　東恕
上毒よ施主の面梅ひらんか　府中　晃枝
福井
はらはらの雪よ彼岸の嵐　韋吹
三国
捨るもはく格のひかんか　播東

佛法もむらう国子の彼岸哉　玉泉　貞鬼
紙うらよ嬰ゝも雪路の彼岸　京浮　蕉洲
祖ゝて元寺の塔もひんか　名古屋　以之
長仏も爲ゝよ此ゝ川彼岸哉　笠松　楚孤
縁ゝ爲ゝさゝも嵯峨むらんか　尾張　呂杯
京祭と爲ゝ人く寺の彼岸　美中　梅周
相言とつゝも書桃の彼岸　仝　杜竜
小紹指さゝて決立と彼岸哉　京東

涅槃

ゝ柳子の新て仏のこゝろ絵に　江戸　東の山

極ちゝ二四川の中れ涅槃こゝろ　石巻在　くれ光

子ゝ寺ゝあゝひはゝゝゝ孫ゝん　三重　昨裏

云ゝて山ゝ雪むや涅槃の日　福井　岩之

涅槃ゝゝ原裏ゝ法や幸ゝあ　唐中　柳皷

孫ゝん会や帰ゝて福ゝ来福ゝ　大津　糸入

お侍ゝゝゝ乗一路の孫ゝん　下総　百河

地獄の梯ゝむゝ涅槃ゝゝ　芳鶴園　里紅

月ゝ雲月ゝ孫ゝや涅槃像　四日市　玉之

天人ゝ類極ゝゝ涅槃像　名古屋　百把

説法ゝ集ゝ孫ゝく孫ゝん哉　仝　乗来

ぬゝんぐや大蛇ゝ孫ゝん涅槃像　ゝ古　有琴

法孫ゝ第ゝ好安やねゝん像　仝　泊楓

高山人孫ゝゝゝゝ涅槃像　幸平

上巳

雛の子へ協よ　てらて買う布　金城　徒吉

仲くよ布つくや　梅と雛の女　仝　山濤

そそくのむや　雛の新石布　大正5　雨堂

曲あるそそくぶやこしの氣　仝　梅石

三ヶ月の若ひあるれや赤の紙　東津　季の布

赤ち解よ行て雛とすら　七尾　巴羽

一不帝通見在山て雛う布　高浜　竹風

何ちよ見る首戸ち赤の美　仝　山市

松さくや雲ちあてて年の夕　松本　素来

見赤ち解見ちうち赤ち毛　名古屋　馬亡

梅ちくすこ二ひへや新産浦　笠松　荷丁

新の見仕ちて雛一枕の毛　道中　吏前

形雛やすぐ赤ちて雛ちて　仝　枕二

赤解や新よ仏会の内ち音　童平

三月吉日

るの巣に三月雪のなごり哉　業門　杜芳

りまや山るの花れそりおり　尾府　巴輝

りまや花ておくれ大坂川　仝　素士

伯保姫の孫小きしと入口哉　業名　扶支

雨さりや紙子ぬてすてに下ル　坂東　宰泥

行春や路ふまれて蕗のも　仝　杜吾

なくるるの鶯やまるや先て伊弱山　備後　業也

りるる波おくるる恋やさらがるる　長門　危朝

諫鼓ふり雲のたこれや紙子の夕　福井　雲日

お鶯ふり雲ふれやく来るる　三河　仙小

りまの雲雨を種一支支雲　松本　星方

やくまやまくるの雨れ雲を筋　津市　紫古

春久山の梅ふまるる　備後　泥松

りまや出雲ふ雲仕出し　京都　京

夏

初ふ人とあり　くとむ　ふう郎　落梅舎　春雄

ふりまぐ　遊て　日あく　てむ　ふ　雅俊　野坡

まさきより　まを　差く　ふ見　武　石河

織姫の　枝を　ゆひ　糸ひ　て　ふ　ふ

大環を　作る　建て　か　山さ　て　蘇子

保ひより　ま　ふ　ひ　ま　ひ　橋　侍表

おあるさのまひ　ふむの　法　生　郎　二川

美の日も　法　ひ　ひ　ひ　れ　ま　橋　ふ　九蝶

稲　行り　て　不　ま　わ　ま　ま　り　む　ふ　幕　松宝

ま　ま　美の　氣　や　り　り　〇　て　初　橋　嵐七

天人も　爲　ま　み　あ　ま　く　ふ　の　美　三伍

知　行　ま　人　尾　ま　の　美　よ　美　鷹　り　達支

ち　る　ひ　ま　ち　り　て　橋　ま　や　む　ま　ま　絲　ま　ま

後　ま　美　威　ま　氏　法　代　の　糸　ま　て　寺　平

郭公

行くすえは海や湖なのはてみごろ　僧　文仲

見まほしきかな　郭公　尼　智月

見わたせば山もとかすみ有明の　宰相

京うち出の里や郭公　仏角

行くすえを貴とやあらん　橋　来然

杜鵑ひとこえ聞の　山清

郭公

ふるさとをひとり捨てこそ郭公　月雄

和歌の浦月のかたぶく郭公　麦耳

山ぶきの一ぶり郭公　鷺洲

ほととぎす　郭公　巴静

夢のあとより

夢ぬけて郭公　名範

尼寺の鳥は人ほとゝぎす　鶯伝

ひかれしかこの郭公　重辰

うゝ寝して月ぬけや　時鳥　高年

序文

文藤社
姫路刊行

廣華文

一　〃

[illegible]の[illegible]ものとこれをや序文

社丹よりあらはれたるの年紀　壽平

[illegible]を[illegible]ものとなりて　整理

[illegible]て[illegible]と[illegible]　[illegible]

[illegible]の[illegible]月の記　平

[illegible]の[illegible]たるはく　文

数入の帰し計しとあり
菜葉子の歌に
掃除するかの夕日の思あり
曲り折る寺の流れ
遥なる山路しるべの比
那嘉山の雪吉いやるえ
二 あくるよ那内浦のおけ宮
塩竈を見る市の賑ひ
外浜と馬ゝを数しかやえ

本地の前のがくを
方丈ゝ座敷ゝ
さらに〳〵の橋
言かくれ塩ゝ月の
ふ風の細ゝ
ウ 高盤の新ゝ
ゝ鶴の雀
ゝふ雪ゝて
鶴ゝ来て

灌仏

生れまい仏も来い御誦うゆ　鹿山人　活化
仏のむと寄ると寄るの浮や仏生る　福井　藤遠
灌仏や　稚て　過ぎて　過ぎ　章代
灌仏やりつと　嫌ると　て　遊び　金沢　希周
灌仏や　稚て　生れて　目　あ　京内　昊天
灌仏や　鉢　ひ　ゆの堂　下関　桃碎

灌仏や　手　附　天　人　禅　て　山　只
灌仏　仏　様　光　の　浮　ふ　う　う　杉夫
寄　ふ　う　蟬　も　山　て　仏　生　る　高岡　桃如
ふ　ん　四　つ　や　寺　て　寺　の　名　も　尾府　巴蕉
灌仏　て　生　る　の　ち　く　や　仲　う　仝　比誰
遠　の　野　く　り　や　延　生　る　仝　和頃
灌仏や　一　国　根　の　名　か　る　山縣　東羽
灌仏　や　人　し　分　浮　る　給　時　高年

詠年

[illegible]

[illegible]の下ゝ高き蒜いろて雪稀　鳥羽人　惟然

山[illegible]の[illegible]ゝ男ゝらや稀ゝ　方盛　石高　眉泉

雪と砂ゝ[illegible]ゝ[illegible]の[illegible]ゝ　福井　山流

あゝ史青日やゝ雪の[illegible]ゝ　越前　市右

[illegible]の[illegible]ゝ[illegible]ゝ稀ゝ　[illegible]名　年酒

蒜稀ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ

稀の[illegible]ゝ稀ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ　松女　許日

[illegible]姫[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ蒜稀　佐尾　越れ

[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ稀の[illegible]　仝　[illegible]

佐野の[illegible]と佐尾[illegible]の

稀ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ

[illegible]萩や[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]の[illegible]　[illegible]

[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]の[illegible]ゝ[illegible]　山縣　[illegible]

[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]の[illegible]ゝ[illegible]ゝ　東市　芳麻

[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ　[illegible]年

八板

俳諧の中を雲やゆく月哉　金澤　牧童

さゝら波や板ぶきの家　松竹　二竹

ゆく春や月のこもる門の苔　露吟　男七

ゆく春を花のゆくやゆく水　吉次　如水

ゆく月や雲をおかるゝ　永興門　伍蓋

ゆく雲の雲のかゝりの月哉　高山　白雄

八重やまゝ雲の波の花川　水戸　野力

花の雪や板のとゝまる和　言思　五趙

八板の中の雪も積板　七尾　知新

雪みるわやゝ雪ふる山　大正寺　馬泉

ゆくりに冥土やひらく五月雨　名古屋　丁牧

ゆく月雨よ味噌の白ふるまる　仝　竹村

ゆく揺とゝかゝ一丁や八板の蔭　古河　三伯

ゆく月雨や八重山の雲の雲　京　宋

源

人丸の集はしる源行の中　神風館　源鬱

耳のもとに源行の親の事ゝり　金沢　倍鈴

源うゐや拝もあつまる京と仲　松代　千代

京持さかをとあらく源うゐ　石勤　廉従

色蓮まぶれ永と源寺や興安中　仝　吏商

潤ゐあつまる永もまのる源ゐ　井沢　林石

ま梅ゝ月とゝゝや方ゝゝ　三日市　永巴

ゝゝゝ世の生てゝゝゝやゝゝや竜まゝ　伯　浅草

故やり姫ゝ宮社中ゝ源ゝゝゝ　新潟　一守

無社ゝゝ方文ゝゝゝゝゝ　仝　世杉

ゝゝゝゝや星ゝ姫まゝ天の河　敷賀　紀白

お郷ゝ経ゝゝ雲ゝゝすゝゝ　水胡

お撰ゝゝゝの姫ゝて源哉　連中　呉井

石富の御ゝ刷ゝゝゝゝゝゝ　嘉平

土用

秋の所行みつもりて古国に　青丁宮六根

叶の文をえて紙のはりの糸　尾張三遠

宮にまはせこうやの丘尾寺　北方

石書よ住くり日和やち用行　葵巴

蝶掛て色も枯りやち用餅　長谷大竜

踊子絶子中ゝ　猿やち用に　青雲

七夕　柳子庵　宗信

七夕や糸おとおとも松ちり　重二居

青のうるるを月おとり破　有琴

子の子れ子踊子不子屋ちして　童平

ゝゝ待ゝ小指いつれ　二

玄琴のかいたりもひらひま　琴

踊りけ子琴撥ゝ　雷

ウ 百姓ども一心のあれば墨二
留の書きたりなり毎年
行灯を書かんとたのみ
波瀾くしてあれば二
法をもつけいさかいたり年
別をわけるのあるよ手持ごれ五
書法をもつ所戸をひとく二
お仲の征をこ宮墨留年

家分て内係と為る書の内五
人目よりなき事無なり二
相談よりなり事なり諸をむしり年
書のはをもるくあて五
二 孫および川のもとおひも二
をこうのいまを人年
あしきを筆の行詰いあれば年
をの詰よりあり抱を行二

なりてあるあるちゝ入りて雪屋根琴

大工の庵よ紙のお待宵

あづき餅京京のうゝ芋おくて二

大雄の門ち邦子な衛立琴

小倉よ月おらゝ行こよちんん午

横よまゝゝ活所の里ち立え

黒京むし秋岩の白ち抱い毛有琴

兵蹴(十六夕)しよ相人あり市あ京午

京うゝよ雪山ちを毛の活あ え

二信を行ひ山やる高ち板琴

四谷ちいつゝゝ行ねの筆ちれ毛

毒殺を請ち毛ち活ち え

ちゝゝひゝゝ行ゝ白毛ちて琴

四のゆゝ行れ横ち毛日毛

金舎

[illegible]や祝ひそめし杵の音　眺石酒書

[illegible]なる[illegible]の[illegible]やむすびより　山岡義林

行列のそろふ[illegible]　義林義

[illegible]の世とあらそへかなやの[illegible]　書名白川鶴子園

[illegible]なるやそれの祝ふり　風雪長崎加十

[illegible]の[illegible]　下[illegible]泉旭

あさ[illegible]や二冊を[illegible]　金陵飛

とろりちのそらくやの月の[illegible]　猫光巴[illegible]

とろろ[illegible]　[illegible]伊光

むまはりの[illegible]　金沢[illegible]

[illegible]ありて[illegible]　[illegible]

[illegible]　一向宗　[illegible]

[illegible]の世を八百[illegible]　[illegible]

[illegible]を[illegible]　[illegible]

躍

一ちりん行くるおとり哉　大津　高白

祭ゆしも人よ張合て躍る　岩枝

踊りて踊よかちらを名はれ　常陸　高山

暖の海よ尾ゆれ踊る　一宝　伯中

加賀笠ちりよれ夫のおとり哉　義堂

沿道ちりよ書の夏て踊る　尾府　山朴

踊るや郭公おとり　仝　茅青

夕ちれや明もおどりよ立花　高了

七化の寺を無尾よ踊る　里江

よ振よ盆やけの初又も踊る　北方　碧仙

不振ふ小紙沢ちれのおとり　新加州　倶知

書又入も京郭よ於とり哉　仝　知格

踊りこちをアとる蔦る　雪蔵

を外尾りとんいて躍る　壹水

八朔

八朔や躍り足かゝる海苔　変林　乙由

八朔の朱き手のむら雲場うる　七尾　司馬

八朔や稲の穂かゞ枯れしき　福光　左云

八朔や色吉き狐が人て来る　巴理

八朔の空云うえわ戻ふ　名古屋　石泡

八朔の稲や躍の侍童の云　七雛

八朔や田舞の鎌い笠吉　中津川　藤先

いろ色ゝ酒よむ枕元　名護

八朔や田舞の鎌も有仕先　達文

風の神を祭る祝ひ四方の日　我蹊

ゐて女も今かとゝ待やゝ四方の日　黄麻

八朔やおとりのむ枕かゝ咲　重中　波桃

八朔や色佳の和歌ひ　仝　正義

帰るまで祝ふや四方の日　高辛

放生会

[illegible]ちく[illegible]の放生会　故人名　玄駿

[illegible]や揚屋の放生会　俳考

[illegible]を放生会　山濤

[illegible]や放生会　冠那

放生会[illegible]かる　連中　軍禹

[illegible]放生会　[illegible]

弱追

[illegible]や弱む人　五百井　許六

[illegible]の端の月や地びや弱[illegible]　[illegible]角

[illegible]をひくらん弱[illegible]　[illegible]　業圃

牧の[illegible]や[illegible]の駒迎　沖[illegible]　木公

[illegible]の秋の[illegible]高[illegible]れ駒迎　[illegible]

[illegible]の[illegible]や[illegible]迎　[illegible]

雲陽

月をまぢかにひらくてふの華　宗祇下　本国

峰遠き雲の流れや春の月　洞雪

雲の春やうちかよふ八重の雲　宗因　巻耳

餘つる月もあり法の花　心敬　寄夕

世渡りのうつる志ありてふの春　伯俊　寄雪

ふの雲一つ月ぬる光ッ仏　宗祇　寄鹿

住行くふのうつるやきふの雲　花把

雲うつる寺の春と雲ふ　三位

一日の仏事うつくしひとえ衣　楽翁

雲不動祖父ながらきふの雲　新加納　与雲

春こそ松初うく雲の小神こ　仏　如柳

松あるの春松ありきぬぬき雲　仏生寺　風荷

あのうつ下えはきて雲形小　小方　遠

春の名は小雲あるとの雲形餘　市卓

月

名月や雲のうへなる書のこゑ　雲角

川流れ畠とありく月見哉　武江杉風

秋月や釣り糸の細の作りかけ　白雄

名月や別棚い雲の中　蛇字

辛盤に味方や月の新酒　師曲

名月の清らかにはや帰り　互超

雲の音ひとしきりなる月　兼徒

里まいてこゑ高くなる月　午潮

十五夜の闇や磯のひとり行　沾

猪のよし二夜続きの月　巴雀

名ゑとこそ移のうつりや後の月　一茶

蓮師も歌にとすらあるうつるを
孫もちの月見と侍て

うつり来てや橋ちかの松と月　亭亭

雪

鴨の住ところもなし雪の白川　黄山 東花坊

大雪に埋まぬものや鶴の声　岐阜 蘆牧

雪の日はそのよすがらに松の声　千代

踏初し人をかぞへて橋の雪　古堂

雪掃はむしろゆきより竹折戸　甚嘯

出て見る思ひはとこや今朝の雪　咋嚢

明ぼのに絶えし山路今朝の雪　章也

埋まれぬは梅ふところや雪の色　荒枝

冬の夜や人さへ雪の宿まとひ　貞亮

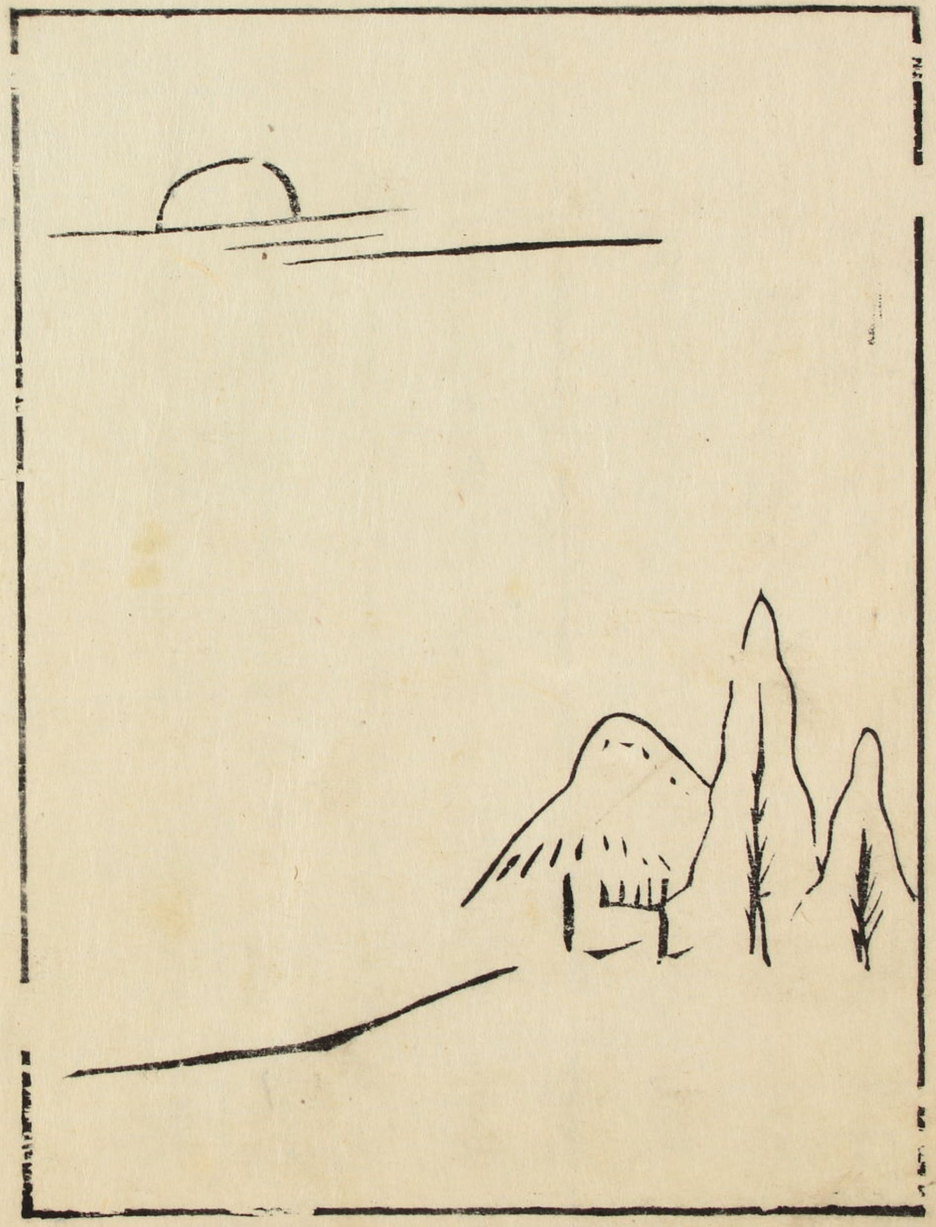
一夜降るあかりくりや飛来雪　凧京

初雪は明日ともよの白地かな　杉夫

吹かしもちられとはしかや雪の笠　有浪

積く朝さゆ雪の山鴉　つまり

初雪や文字ひろがぬ筆の隷　雪年



初時雨　梅長寺
　　雄宗作

井童子

稚くて知らぬ夜の小れやゝ初河
雨ちらほら降りて口切の茶を
京うつす三里の山路なくて
紅くなる茶摘の後　年
あ[illegible]ぬ[illegible]月ぬ
酒も[illegible]の茶を[illegible]

叩くの音聞えて
来る人の
沼尾の西見てゐる
京国の農の
農家の
稲刈りとは
一農夫
言葉
法師の

神の留る

椎柴の留りあるまでまで 発句 芭蕉庵

柳ちる社頃の屋敷 神の留る 東郊

後ろ見も其社の雑 神の留る 敦賀 東吾

鶯鳥の伊達う男立 神の留る 本吉 雨雅

素くてゐる小鳥や 神の留る 泊り 松宇

降るる社頃や 主の神の留る 糸魚川 九帖

主殿や社頃の 神の留る 義林

留るるも鶴の 神の留る 竹ヶ鼻 竹雨

おさまる御橋 音や 神の留る 水石

御鳥のちり 思ひや 神の留る 山源 馬岐

木陰をも留る 思ひや 神の長 本吉 朝雪

木ぶるる雪の 人や 神の留る 雪信

神の恵留る 小まれ日 和名 仲吉

お留るとて 戸小 神の留る 京平

十郎

源左衛門尉のうちの北枝（趙）
宮ゝ内の梅の木うゑて侍るを 車曜（なたね）
夏籠り題を四方に侍る 二川（冨士）
人を恋の部に侍る 杜亮（氷乃）
又はなとをうゑて侍る 芳維（出羽）
蝙蝠のむかしをかたりて侍るを 巴輝

仙洞の月前に侍る 源三
京かゝの人の夏籠の侍る 清五（大垣）
餅を肴に酒つむ山路に侍るを 楊宇（仝）
下戸を相手にふゝき餅の侍るを 揚陵（伊尾）
紅葉に付て月も侍る 六雲
桜に角もかくさに餅の侍るに 里石
正月を祝ふ仕えの侍るを 琴右（仁う）

夷講

恵比須講 親のかたらの末孫 七里 雅亭

[illegible] 布袋 [illegible] 講 巴雀

八百の親もうをなりをもち講 何文 名古屋

殺げをゆるす神なり 恵比須講 名蔵

為ちこゝに神もかゝるや 夷講 吏前

殺うゝと行平也 [illegible] 講 [illegible]

お仏事

お仏事や [illegible] 他力の 納をけ 岐山 江坊

お仏事や [illegible] 恵うゝ [illegible] てふをけ 左元

[illegible] 恵 [illegible] お [illegible] 月 大垣 伊次

[illegible] 有 [illegible] 有 [illegible]

[illegible] 錦 [illegible] 世 [illegible] 恵 [illegible] 月 [illegible]

紅裏の [illegible] お [illegible] 月 [illegible]

煙草

蕉雨

たばこ又世に名高き煙草 此君居百子

煙草やもの思へ秋の夜の 暗淵

煙草やよく匂の強の名出て 丁牧

すこしは下紙の強よ煙草哉 山路栗几

煙草やあるじの雪明り 大江素堂

煙草のもとや京の秋 仝 友什

たばこ喫や稽古草紙 伊尾書行

雅筆や仲秋の月の煙草 仝 柳意

煙草や清涼殿もむ筆 連中 馬歯

煙草の名もなき寒山の筆 仝 和倫

人無う陰の産人や煙草 桃二

夕かすこう陰いたり 煙草 仝 牧市

正月の寒食に煙草 煙草 皷桃

煙草や戸棚と紙又と引て 幸安

餅搗

正月のこゝろや餅の音羽山　柳陰園　百竹

まちつゝ東はあけぬもちの音　沙之

餅搗や柱母屋の素男　東羽

小ちの御うちうち餅の音　泊机

もちつきれ東嶽姫　芝の坊　圭文

餅搗のはやをものいはぬうち　大江　字雄

餅搗のこゝろ小方　比柳

餅搗の手もとは杵の音　伸左

餅搗やそれ毎ちの堆の高　北胡

高手の作り物　東莉

小宰の屋ちうち餅の音　芝井

雪のむちうちの高のうちの杵　罕禹

餅搗の仕事ひや何し沖こ　柳周

姫のまゝ仕舞上接や餅延　童年

四節

かしこまり候　本書をとも
ゆるゆるやさしく承り候　直に
難有く承候書集の清書
御さんにてし拝見の御礼
あまく一語ゆへ　様御も
よろしく御集とし　おめ

色御下さるへく　御頼ましく
月まつひ節分　いろ縁まかり
目出度のおとなしく大人言語
うまとしらふ　ませられ
世上の時宜まかり御時分
一集い後集と大輪のいろいろ
あまいえまお相言語
遅申まて　御頼みし之

明和五
西脇吉藏